

F₁ 切花用リシアンサス フレア・シリーズ

学名: *Eustoma grandiflorum*

種子粒数の目安: 1000 粒(ペレット種子)/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイサイズ

リシアンサスの育苗は、392 穴や 406 穴、あるいはこれらと同等の容積サイズのトレイを用いる

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 6.2 から 6.5 の範囲、また EC は 0.75mS/cm(1:2)前後とする

※リシアンサスは塩類にとっても敏感なので育苗期には注意が必要

ステージ 1

発芽: 発芽には 10 から 12 日を要する。覆土はしない

地温: 20 から 24°C の範囲とする

光条件: 発芽には 100 ルクス(10 f.c.)の光が必要

水分: ステージ 1 においては、最適な発芽結果を得られるように培地の状態を湿潤(level 5)に保つ

湿度: 幼根が現れるまで相対湿度 100%を維持する

ステージ 2

地温: 20 から 22°C の範囲とする

光条件: 最大で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 根が培地中を十分に張り巡らせるよう、培地の水分含有量を少し減らしてやや湿潤(level 4)とする。プラグトレイの表面に粗めのバーミキュライトを薄く敷くことで、発芽後チャンバーから出した後のコケや藻の動きを抑制できる

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC は 0.7mS/cm 以下)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18 から 20°C の範囲とする

光条件: 最大で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 培地の水分含有量は標準(level 3)で維持する。かん水とかん水の間には、培地が十分に乾くような状態とする。極端な乾燥はロゼットを誘発する可能性があるため、注意して避ける

肥料: レート 2(100-175ppm(N)、EC は 0.7-1.2mS/cm)の肥料を与える。培地の pH は 6.2 から 6.5 の範囲を、また EC は 1.0mS/cm (2:1)前後を維持する

※ 切花用リシアンサスには矮化剤による処理はしない

ステージ 4

温度: 17 から 18°C の範囲とする

光条件: 温度条件が適切に維持されるのであれば、53,800 ルクス(5,000f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: ステージ 3 と同様

※ リシアンサスのプラグ苗は、根詰りによるロゼットの原因となるので、トレイのまま長く放置しない

定植から収穫/出荷まで

定植場所

秋から春にかけての適切な気候条件のもと、施設栽培を行うことで質の高いリシアンサスの生産が可能である。夏期に問題なく生産を行うには日光を適宜遮蔽することが可能な施設で生産する

定植時の培地

リシアンサスの栽培には新しく衛生的な用土を使用する。初期の養分量は中庸とし、pH は 6.5 から 7.2 の範囲とする。リシアンサスは高い pH レベルが必要な植物である

定植時の株間

夏期: 84 株/㎡を標準とする

冬期: 64 株/㎡を標準とする

ネット掛け

1 ないし 2 層のネット掛けを行う。15 x 20cm のサイズを標準として推奨

生育適温

昼間: 20 から 24°C

夜間: 16 から 18°C

生育時の温度が低いと、ステムの長さや厚みが育つまで通常よりも長い生産期間を要する。加温が必要な地域では、温風機のほか、地温を暖める温湯設備なども推奨される。温度が 28°C を超えるような条件では、とくに温度に敏感な品種では定植後 4 週の間に入ってしまうことも考えられるので十分に注意する

光条件と遮光管理

この品種の最適な光条件は、適切な温度条件が維持されていれば、40,000 から 60,000 ルクス(4,000 to 6,000 f.c.)の範囲である。より高い光条件によって花芽の数が増加し、良質な花が多く産出される。しかしながら 70,000 ルクス(7,000 f.c.)を超える過度な照度にもとでは、ステムの長さが短くなる可能性がある。適切な長さのステムを得るには適宜、遮光による管理が必要である

日長時間が 12 時間に満たない冬期においては、電照(白熱灯あるいは HID)による補光を利用する。また 14 時間以上の長日、または午後 10 時から午前 2 時までの暗期中断によって開花は加速化される。HID による補光は、花の質を向上させ生産期間を短縮させるので望ましい手段である

かん水

初めは頭上かん水による生産を行うが、定植後 2,3 週をめどにドリップかん水に切り替える。培地は適度に湿った状態を保ち、次のかん水までの間はやや乾くよう、過湿にはしない。リシアンサスは定植後の初期は生育が遅いので水分を多くは必要としない。ただし、株が花をつけてからは水切れや乾燥は避けるようにする

肥料

かん水と交互に、リン成分の低い硝酸態の肥料をレート 3(175-225ppm(N), EC 値が 1.2-1.5mS/cm)の濃度で与える

平均的な生産期間

播種から移植まで: 概ね 8 から 10 週

プラグ定植から収穫まで:

- 冬期: 14 から 18 週
- 春期、秋期: 12 から 14 週
- 夏期: 10 から 12 週

フレア・シリーズは開花までの速度がグループ 2(早生咲のグループ)に属するリシアンサス

※ 生産期間は作型や温度、日長時間や照度レベルのほか、電照による補光や施設の条件などによって異なる

また緯度の高い地域では、シーズンによって日長時間が大きく変化するので、通常は HID などによる電照補光が用いられる。このような地域では、条件によって生産期間が大きく異なることが予想される

収穫後の取扱いについて

通常は、1 花またはそれ以上の開花が確認された時点でステムの収穫を行う。温度の上昇にともなう花や株のいたみを最小化するためにも、朝に収穫をする方がよい。ステムにまだ熱が残っている場合は、できるだけ適切な状態に維持できるように、収穫後に束ねた切花を低温の条件に移す。収穫されたリシアンサスの切花については、常に清潔なバケツに収容し新鮮で低い温度の水を用いる。また収穫後、ステムに熱が残存している個体については出荷しない。収穫後 3%のショ糖液に 24 時間浸けることで、切花の観賞期間の延長が可能である

日本やオランダでは、リシアンサスの切花は 10 本単位で束にされる。北アメリカでは、ステムの太さによって生産農家が、例えば 4 から 14 本程度の適切な単位の束によって出荷される。流通上の見地から、近年はアメリカでも 10 本単位の束を標準と見なす流れが進んでいる

病虫害について

害虫: アブラムシ、スリップス、ホワイトフライ、ハモグリなどに注意して駆除を実施する

病気: ボトリティス、フザリウム、ピシウム、リゾクトニア、トマト壊疽ウイルス(Tospo Viruses)などに注意する

その他: 育苗時のトレイ表面に付着するコケや藻、また生産中のロゼットにも注意が必要

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。